

木崎中生の伝統の継承

校長 大谷 慎也

日中の暑さも収まり、夕暮れ時の虫の音に秋の風情を感じる頃となりました。過日実施いたしました体育祭におきましては、保護者の皆様、地域の皆様に御来校をいただくとともに、温かい御声援をいただき、誠にありがとうございました。心より感謝申し上げます。台風の影響も心配しましたが、お蔭をもちまして、無事終了することができました。3年生を中心に体育委員会が掲げたスローガンをもとに団結し、学級・学年・学校全体へと輪を広げ、躍動感と達成感のある体育祭を創り上げました。3年生の示した牽引力と実行力は、1・2年生にとりましても今後の学校生活全体の意気をさらに高めるものと期待しております。

さて、10月4日(水)は十五夜です。「秋の七草」の一つである薄すすきやお団子、農作物など供え、お月見をする家庭もあることでしょう。「秋の七草」は、風邪の予防や胃腸を休めることのためにお粥として食する風習のある「春の七草」と趣向が異なり、視覚的な情趣があります。古くは『万葉集』の中にも山上憶良の歌として収められています。

「秋の野に 咲きたる花を 指折り かき数ふれば 七草の花」(『万葉集』巻八 一五三七)

「萩の花 尾花葛花 なでしこが花 をみなえし また藤袴 朝顔が花」(『万葉集』巻八 一五三八)

「朝顔が花」は、桔梗(キキョウ)の花である説が多いようですが、藤袴(フジバカマ)とともに絶滅危惧のレッドリストに挙がり、自然界では激減しているそうです。しかしながら、飛躍的に科学が進歩している現代社会において、五穀豊穰を感謝し、自然への畏敬の念をあらわすなど、伝統や文化、風習を継承していくことは大切なことです。

2学期が始まり1か月が過ぎようとしています。いよいよ1年間の下半期に入ります。学校でも、伝統や文化が継承されつつあります。生徒会本部役員選挙が27日(水)に行われ、熟慮された公約を掲げた7名の新役員が選出されました。新たな風が吹くこととなります。また、24日(日)の陸上部を皮切りにさいたま市中学校新人体育大会が開催されています。それぞれの部が、木崎中生としての誇りを胸に、持てる力を存分に発揮することと期待しています。さらに、来月26日(木)の「さいたま市小・中一貫教育『つぼみの日』」では、来年4月入学予定の小学校6年生児童が来校し、限られた時間ですが、中学校生活についての説明会や授業・部活動等の見学会を予定しています。3年生が先輩から受け継ぎ、中心となって築き上げてきた木崎中学校の伝統や文化、風土が、少しずつ次の世代に継承されていくことにとっても感慨深く、頭が下がる思いです。1・2年生や小学校6年生が、当たり前前のことを当たり前に行い、その積み重ねによる「凡事徹底」、そして、新たに創造していく「進取の精神」をさらに養ってほしいと強く願っています。

保護者の皆様、地域の皆様、一人ひとりの生徒が皆様のお声掛けや見守りにより、日々心豊かにたくましく成長しております。今後とも、御支援と御協力をお願い申し上げます。